



学校の働き方改革



# 取組リスト

令和8年3月

# はじめに

## このリストの使い方

### 1 テーマを選ぶ

- 気になるテーマを選び  
クリックします



### 2 取組を探す

- リストから「やりたい取組」を探します
- 印刷した方は  
気になった取組に✓を入れましょう！



### 3 【コラム】 始め方を知る

- 「やりたい取組を」を合意し  
始める方法を考えます



※ ◎のついた取組は、リンクから詳細をまとめたインタビューもご確認いただけます

# 取組リストのテーマ

興味があるテーマに飛んでください

## 会議

- 回数・準備の見直し
- 校内研修の見直し



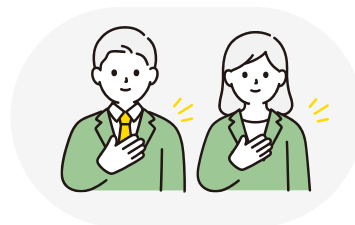
## 時程

- 回数・時間帯の見直し
- 清掃の見直し



## チーム制

- ローテーションの導入
- 教科担任制の工夫



## 学級経営・ 生徒指導

- 学級通信の見直し
- 服装等の見直し



## 学習指導

- 宿題・採点の見直し
- 通知表の見直し



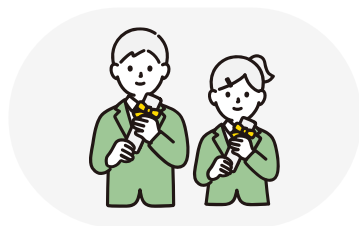
## 部活動・ クラブ活動・委員会

- 体制の見直し
- 活動内容の見直し



## 行事

- 運動会の見直し
- 文化的行事の見直し



## 事務関連

- 職員室環境の見直し
- 分掌業務の見直し



## 保護者対応

- 連絡方法の見直し
- 面談の見直し



# 会議



01

## 会議を減らす・なくす

- 資料を「読むだけ」ですむ会議はなくし、資料共有のみにする
- 情報共有は会議以外の方法にして、対面で行う会議の開催回数を半分にする
- 全ての会議の「目的」や「出席者」を棚卸しし、重複が多いものは統合する
- 朝礼・夕礼の内容と所要時間を整理し、どちらか片方にまとめる

02

## いつ・どんな体制で行うか決める

- 時期固定の業務を計画的に進めるため、職員会議の議題に前倒しであげる
- 特定時期に集中しないよう、年間予定表をもとに実施時期を振り分けなおす
- 集中作業時間を確保するため、週1回は「ノー会議デー」を設定する
- 年度末の振り返り等、議題により分掌や学年を超えた全体会議にする

03

## 会議の「参加者」「時間」を見直す

- 「会議時間=1コマ」の固定観念を捨て、15分や30分単位で細かく設定する
- 議題が少ない会議は、職員会議後に10分実施等ほかの会議に組み合わせる
- 議題ごとに関係者を考え、「議論に必要な人」に絞って参加を依頼する
- 全員参加の前提を見直し、関心や必要に応じた自由参加形式とする

04

## 事前準備・周知を見直す

- 資料のデザインを考える時間を減らすため、会議資料は統一した型を作る
- 準備の漏れを無くすため、議題や資料締切を共有カレンダーに登録する
- 資料印刷をPCを持たない教職員の分だけに限る、または印刷なしにする
- 時間を厳守して進めるため、前日や当日の朝に開始時間を再周知する

05

## 会議の進め方を工夫する

- 会議の冒頭に「会議終了時点で出来ているべきこと」を宣言する
- 終了時刻を守るために、定刻になったら参加者が揃わずとも開始する
- 職員室に立ち話用の机を設置し、短い打合せであれば職員室内で行う
- 抜け漏れを防ぐため、終了後「決定事項」・「次やること」を共有する

会議

時程

チーム制

学級経営・  
生徒指導

学習指導

部活動クラブ  
活動委員会

行事

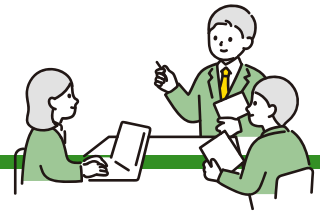
事務関連

保護者対応



学校全体で年度末の振り返り！意欲ある意見を引き出す新たな仕組み

## 会議②



06

### 会議以外の方法を使う

- 都合のいいタイミングで返事が出来るように、質問・相談はチャットで行う
- 聞き漏らしがないように共有事項は、職員室内の掲示板にまとめる
- 学内のポータルに、共有事項をまとめて掲載するページを作る
- 職員室内にデジタルサイネージを導入して、共有事項を表示しておく

07

### 校内研究・研修を見直す

- 準備や心理的な負担を減らすため、いつでも授業を見学可の形に変える
- 「教科ゼミ」や「協働での教材研究」で代替する
- 授業後の振り返り時間を減らし、単元計画を共に設計する時間を増やす
- 年初に校内研修のテーマと担当組織を一覧化し、準備を進めやすくする

会議

時程

チーム制

学級経営・  
生徒指導

学習指導

部活動クラブ  
活動委員会

行事

事務関連

保護者対応

# 時程



01

## 回数を変える

- 朝にゆとりを持たせるため、朝学習の実施を週3回程度に減らす
- 清掃活動の目的を見直し、掃除の回数を週2回等に減らす
- 行事や会議がある日は、清掃なしとする
- 週末の業務負担を軽減するため、土曜授業の年間実施回数を減らす

02

## 実施する時間帯を変える

- 清掃活動の目的を見直し、頻度・場所・やり方を変える
- 会議や学校行事がある日は、清掃なしにする
- (中高) 分掌会議等の参加者が限られる会議は、授業時間内に組み込む
- 全校集会は原則オンラインとし、移動用にとっていた時間を削る

03

## 実施する順番を入れ替える

- 朝の時間に余裕を持たせるため、モジュール授業を午後に設定する
- 準備が終わった子どもから帰宅できるよう「終礼→帰りの準備」の順にする
- 清掃を終礼後に設定し、子どもが全員ではなく持ち回りで参加する
- 午後に向けて雰囲気落ち着けるため、給食後「昼休み→清掃」の順にする

04

## 教職員が放課後まとまった時間を確保できる工夫をする

- 作業集中時間を確保するため、月1回程度「一斉下校日」を設ける
- 教員が年間指導計画を集中して考えるため、短縮授業日を設ける
- 会議や研修の時間を確保するため、5時間授業の日を設ける
- 休み時間の長さや部活動の活動時間を見直し、最終下校時刻を繰り上げる

会議

時程

チーム制

学級経営・  
生徒指導

学習指導

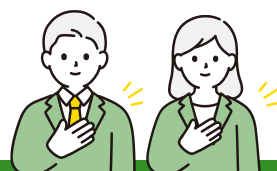
部活動クラブ  
活動委員会

行事

事務関連

保護者対応

# チーム制



01

## 複数の教員で、複数の学級を「担当」する

- 朝礼終礼や給食を専科の教師や副担任も入れローテーションで担当する
- 複数のクラス・学年で、給食や掃除を合同実施する
- チームで子どもを見る意識作りとして、1週間限定で担任交換期間を設ける
- 学級担任から「学年担任」とし、各クラス・活動を持ち回りで担当する

02

## 教科担任制を始める・工夫して続ける（小学校のみ）

- 2クラス間での交換等、小規模な教科交換授業から始めてみる
- 児童の情報を収集するため、週1回学年会を新たに設定する
- 時間割作成に学年主任にも入ってもらい、各学年主任・教務で調整をする
- 児童の状況を把握するため、週の始め・終わりに「学級の時間」を確保する

03

## スクール・サポート・スタッフ(SSS)や養護教諭等と連携する

- SSSの経験やスキルを踏まえ「依頼できる作業リスト」を作成する
- SSSの勤務日・時間を全職員で共有し、見通しをもって依頼する
- 依頼中の業務・依頼者を表で一覧化し、教員間で優先順位を調整する
- 不登校支援の窓口を養護教諭が担当し、家庭との連絡を担ってもらう

会議

時程

チーム制

学級経営・  
生徒指導

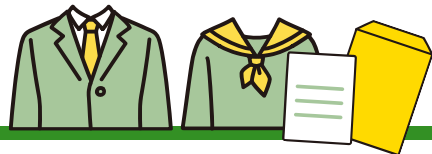
学習指導

部活動クラブ  
活動委員会

行事

事務関連

保護者対応



## 01 校内掲示のやり方を変える

- 「行事の記録」等教室の掲示物は、貼り替えから「貼り重ねる」形にする
- 習字等授業で作った作品は、子ども自身が飾る
- 貼り換えを減らすために、教室や廊下に飾る常設の掲示物を絞る
- 写真や掲示物を貼らずに、モニターで写して紹介する

## 02 学級通信やおたよりの形式を変える

- 学級通信の記入を減らすために、用紙をA4に小さくする/記載欄を狭める
- 学級通信を廃止し、学年通信や学校通信に統合する
- 学級通信などの配布資料を、紙からデータに変える
- 学校評価等の保護者向けのアンケートは、Webで回答してもらう

## 03 生活指導を変える

- 服装や身だしなみに関する規定を見直し、点検をする場所を絞る
- 規定を改めて子ども・保護者に周知し、家庭や子ども間での点検を促す
- 先生方で話し合い、生徒指導の観点をまとめた「〇校スタンダード」を作る
- 制服から私服に切り替えることで、服装指導を縮小・廃止する

## 04 給食指導・朝礼終礼の担当を変える

- 朝礼終礼や給食を専科の教師や副担任も入れてローテーションで担当する
- 給食を2クラス・2学年以上で合同で行う
- その日の最終授業を行った担当教員が、そのまま終礼も担当する
- 朝礼を担当する先生を、その日の1限目を受け持っている先生にする

## 05 清掃のやり方を変える (※時程と一部共通)

- 清掃回数の削減と合わせ、自主的にこまめに片づけをするよう声掛けする
- 時間短縮のため掃除のやり方を見直し、掃除機等の道具を利用する
- 保護者・PTA等に依頼し、清掃時の見守りや清掃活動を外部化する
- 行事や会議がある日の清掃は、原則無しとする

会議

時程

チーム制

学級経営・  
生徒指導

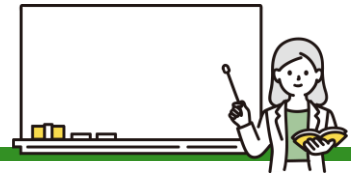
学習指導

部活動クラブ  
活動委員会

行事

事務関連

保護者対応



01

## 宿題の出し方を変える

- 学校統一の宿題形式を見直し、発達段階に応じた形式・内容にする
- 子どもの自主性を育てるために、複数の宿題から選択できるようにする
- 子ども自身の目標に合わせ進められるよう、アプリケーションで宿題を出す
- 夏休み等の長期休業中の課題は、原則として自由課題とする

02

## テストや採点のやり方を変える

- 採点時間を計画的に確保できるように、テスト返却日を後ろ倒す
- 採点システムやマークシート形式を導入し、採点を自動化する
- 日々の小テスト等での評価を重視し、定期考査の回数を減らす
- 担任外教員や外部人材を含め、採点を分担する

03

## 通知表・成績処理のやり方を変える

- 通知表の保護者印を廃止し、家庭に渡しきりにする
- 所見の記入を年1回に減らし、個人面談のやり方を見直す
- 所見に記入する文章は、生成AIで誤字脱字をチェックする
- 成績に関する記録を1つのファイルで一元管理し、転記作業をなくす

04

## 授業準備・教材共有のやり方を変える

- 先生間で重複する作業を減らすため、指導案や教材をクラウドで共有する
- 入力・管理の時間を減らすために、週案の記入欄を減らす・電子化する
- 小中連携を視野に、9年間を見通した教科ごとの指導計画を作る
- 印刷待ちや移動をなくすため、授業教材も印刷せずデータで共有・利用する

会議

時程

チーム制

学級経営・  
生徒指導

学習指導

部活動クラブ  
活動委員会

行事

事務関連

保護者対応



## 01 部活動の「活動時間」を変える

- 基本的な活動時間を見直したうえで、生徒・保護者に周知する
- 季節ごとに活動時間を変えるシーズン制を導入する
- 大会前などの集中期と通常期を分け、活動時間にメリハリをつける
- 平日活動は2時間までとし、大会前以外の延長練習を原則禁止する

## 02 部活動の「組織体制」を見直す

- 希望調査と活動実績を踏まえて、段階的な統廃合計画を立てる
- 複数顧問制を導入し、顧問1人あたりの指導日数を制限する
- 近隣校との合同部活動や、地域クラブへの段階的な移行を進める
- 外部指導員等の活用で体制を拡充する

## 03 部活動の「中身」を生徒と変える

- 運動部共通の準備運動等を導入し、部活横断で合同で練習をする
- 生徒が振り返りできるように、デジタルツールで練習を記録・共有する
- 生徒に実施頻度や時間の希望を問う、アンケートを実施する
- 活動の目的を生徒と再設定し、生徒が主体的に練習計画を立てる

## 04 委員会の体制・やり方を変える

- 次年度以降の引継ぎのため、活動内容を子ども自身に記録してもらう
- 1つの委員会を複数人で担当できるよう、類似する委員会を統合する
- 放課後集まる回数を減らすため、生徒会との連絡を原則チャットにする
- 年間を通じた活動を均一化するため、生徒会や委員会の強化週間を廃止する

## 05 クラブ活動の体制・やり方を変える

- 毎回の企画負担をなくすために、基本的な活動を固定し必要に応じ追加する
- クラブ決めは、体育館に一斉招集しその場で希望を取り所属を決めきる
- 1回の活動時間を延ばす代わりに、年間活動回数を減らす
- 1回あたりの活動時間を授業1コマ分の時間に合わせ、短縮する

会議

時程

チーム制

学級経営・  
生徒指導

学習指導

部活動クラブ  
活動・委員会

行事

事務関連

保護者対応



## 01 行事全体の「設計」を変える

- 教職員のアンケートで、各行事が教育目的と合っているか確認する
- 目的や内容が重複している行事を洗い出し、統合・廃止を検討する
- 各分掌や学年で各行事の準備・運営に加え、年度末に必要性も振り返る
- 行事の目的に支障ない範囲で、準備や運営の形を見直す

## 02 運動会の内容を変える

- 用具準備の時間を減らすために、徒競走等同じ競技は連続して実施する
- 種目を減らすかわりに、企画や当日運営の子どもに委ねる部分を増やす
- 学年別の開催等、参加者を絞ることで開催時間を半日にする
- 目的を踏まえ、行進や保護者リレーなど慣習的に行っている種目をやめる

## 03 文化的行事のやり方・位置づけを変える

- 全校一律でのコンクール・作品展への応募をやめる
- 作品展を廃止し、授業参観時に合わせて作品を掲示する
- 合唱コンクールの練習を、音楽の授業時間内で完結させる
- 学習発表会を「授業の成果を発表する場」と位置づけ、特別な準備をやめる

## 04 進路関連行事のやり方を変える

- 外部とのやり取りを対面からメール・オンラインも活用する(高校・特支)
- 体験授業を廃止し、説明会・見学中心のシンプルな学校公開にする(高校)
- 進学先候補の学校紹介は、校内で行わず合同説明会の案内にする(中学)
- 進路指導の年間計画を年度初めに共有し、担当分掌に計画的な準備を促す

## 05 入学式・卒業式のやり方を変える

- 教員は袴ではなく、スーツ等で参加とする
- 来賓者を減らし、祝辞の時間を短縮したり来賓対応の負担を軽減する
- 入学式と新入生を迎える会を統合し、クラブ紹介等は動画や資料共有にする
- 卒業式の練習時間を減らし、卒業証書授与は学級内で練習する

会議

時程

チーム制

学級経営・生徒指導

学習指導

部活動クラブ活動委員会

行事

事務関連

保護者対応

## 行事②



06

### 全校集会・その他の式典の形を変える

- 「教員持ち回りの話」を辞め、学校通信のコラム欄を輪番で担当する
- 全校集会や学年集会を、体育館集合から放送・配信にする
- 表彰作品を対面時より鮮明に映し届けられるよう、表彰は放送・配信にする
- 離任式と修了式を同日にまとめて実施する

07

### 宿泊関連行事の負担を減らす

- 持ち物のルールを緩和し、持ち物検査を簡素化する
- 子ども主体の自由な時間を確保するため、活動を減らし余白をつくる
- しおりの作成を辞める、または近隣の学校と共に作成・利用する
- 修学旅行前の説明会を動画で配信する

会議

時程

チーム制

学級経営・  
生徒指導

学習指導

部活動クラブ  
活動委員会

行事


事務関連

保護者対応



01

## 職員室の環境を変える

- 共有事項を確認できるよう、デジタルサイネージや掲示板を設置する
- 大掃除の時間を取らず、週1回退勤時に机上の書類等を片付ける日を作る
- 職員室内で会議・情報共有ができるよう、ホワイトボードや机を設置する 
- 移動距離が短くなるよう、プリンターや什器・機器の配置を見直す

02

## 共有施設の利用方法・共有物の管理を変える

- 探し物にかかる時間を減らすため、教材準備室や倉庫の備品を整理する
- 使用頻度の低い教室を、集中作業部屋にする
- 確認時間を減らすため、学校施設の予約を共有ファイルで管理する
- 備品管理の負担を下げるため、バーコードを貼って管理する

03

## 勤務時間を意識する

- 各自の毎日の退勤時間を表にシールで貼り、見える化する
- 毎日終業時間に、職員室を1回自動で消灯する・BGM等をかける
- 月に1回程度全校一斉の「完全消灯日」を設定する
- 時間内で業務を収める意識をもって、「完全閉門時間」を設定する


04

## 働き方を変える・帰りやすい文化をつくる

- 自分が帰宅する際には周りに声をかけ、「誰か連れて帰る運動」を試す
- 毎月初めに、各自「My定時退勤日」を設定・共有する
- 机上に「今日の退勤予定時刻」を掲げ、超過していたら周りが声掛けする
- 夏休み等の長期休業期間は、テレワークを奨励する

05

## 校務分掌の体制・業務を見直す

- 先生間の負担の差を減らすよう、分掌の業務内容・量を洗い出す 
- 担当不在で見逃す業務をなくすよう、業務を一覧化し担当者を必ず配置する
- スムーズな引継ぎができるよう、マニュアルや資料を1か所に保管する
- 各業務を実施するたびに、簡単な振り返りを行い記録を残す



コミュニケーション活発化計画！対話スペースとホワイトボードでスムーズな連携を  
校務分掌を一元管理！業務量の「見える化」でスムーズな業務の分担

会議

時程

チーム制

学級経営・  
生徒指導

学習指導

部活動クラブ  
活動委員会

行事

事務関連

保護者対応



01

## 電話対応のルールを決める

- 勤務時間外の電話は留守番電話での応答に統一する
- 電話を受けた教職員が聞くべき内容（氏名・緊急性等）を共通化する
- 冒頭のアナウンスで録音する旨を伝え、全通話内容を記録する
- 録音データを使い、保護者の意図とのずれがないか確認する

02

## 連絡にデジタルツールを活用する

- 学校から保護者への配布物を原則デジタル配信に移行する
- 保護者からの連絡・欠席連絡等の日々の連絡をデジタルツールで行う
- 行事の振り返りや学校評価等の保護者アンケートをWebで回答してもらう
- 面談日程をWeb上で保護者自身に登録してもらう

03

## 面談の実施方法を変える

- 家庭訪問前の訪問先への下見を廃止する
- 勤務時間内で面談を収めるため、オンライン面談も可とする
- 対面での家庭訪問を原則廃止し、学校内またはオンライン面談に切り替える
- 調整の負荷を下げるため、面談期間に予備日を確保する

04

## PTA関連業務をスリム化する

- 慣例となっている行事後のPTAへのお礼状送付を廃止する
- PTA総会や各種委員会をオンライン開催に切り替える
- PTAが主催する行事の目的や内容を再定義し、統廃合や隔年開催を検討する
- 役割が重複するPTA役職・分科会を統合・再編する方向で本部と話し合う

会議

時程

チーム制

学年経営

学習指導

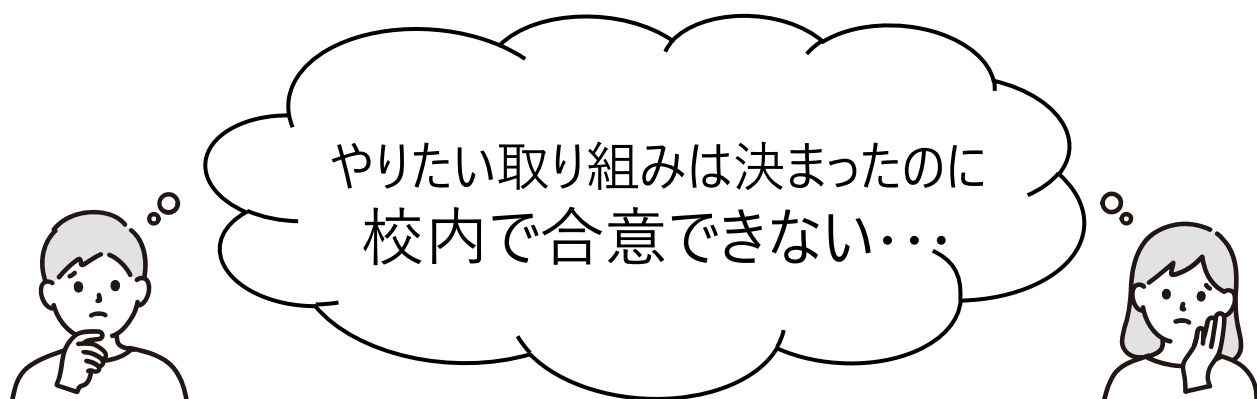
クラブ・

行事

事務関連

保護者

## 【コラム】始め方を知る



「どうやるか」で困ったら、  
「何のため」に立ち返り考えてみましょう

### STEP 1



#### 目的に立ち返る

- やり方の話に入る前に、一度立ち止まる
- 「そもそもなんのために」やっているのかを考える

### STEP 2



#### 現状を振り返る

- 今のやり方で大切に守りたい「価値」を考える
- 「正直ココが大変…」という手放したい「課題」を考える

### STEP 3



#### 新しい方法を考える

- 「価値」を守りながら「課題」を解決するには・・・？
- 改めて自分たちの学校にあった方法を考えましょう

### STEP 4



#### 小さく「お試し」から始める

- いきなり学校全体で大きな改革をするのは大変
- この期間だけ・学年だけ、と絞って小さく始めましょう

## 【コラム】始め方を知る～運動会編～

### 「運動会半日開催にしませんか…？」から始まった話し合い

「準備の負担を考え、運動会を半日にしませんか？」という提案に、「子どもたちが楽しみにしているのに短くするのは・・・？」と反対の声が上がる。そんな意見の対立から、一度立ち止まって話し合うことになりました。



#### STEP 1

### 「そもそも運動会でどんな力を育てたいんだっけ？」

「そもそも、運動会を通じどんな力を育みたいんだっけ？」という問いを立てたことで、対話の質が変わりました。「伝統」や「体験」という言葉の奥にある想いを共有し、「仲間と協力し、主体的に課題を乗り越える力」を育む、という共通のゴールが見えてきました。

#### STEP 2

### 「大変なこと・今のやり方で守りたい部分は？」

率直に語り合うと「準備が大変すぎる」という課題や「団体競技で育まれる協調性のように、今のやり方で得られる価値も大切」という声も上がり、議論は「半日か終日か」という二者択一から「守るべき価値」と「手放したい課題」を両立させる建設的なものに進化しました。

#### STEP 3

### 「『主体性を育む』なら、どんなやり方？」

「『主体性を育む』目的なら、全体練習は現状ほど必要か？」という問いから、入場行進等の見直し案が浮上。さらに「主体性を発揮」を目的に、子どもに企画を任せる部分を増やすことで、活躍の場を創出しつつ教員の負担も軽減できる、という創造的な議論になりました。

#### STEP 4

### 「『来年だけ』『高学年だけ』変えてみませんか？」

「いきなり変えるのは不安」という声を受け「企画の一部を最高学年の生徒に任せてみないか」という方向で話が進みました。完成形ではなく、あくまで教員の役割を変える「実験」。みんなで結果を評価し、次年度の方向を改めて検討する前提で、第一歩を踏み出せました。